

【中崎遊園地の歴史】

明石城跡は明治16年(1883)に民営公園となり、整備が進んでいたが、明治31年(1898)に御料地に編入されたため廃園となった。そこで明石町は観光客や地元民の遊楽する場所として、中崎の公園化を県に働きかけ、明治36年(1903)に中崎遊園地が開設された。

もともと中崎は白砂青松で淡路島を望む風光明媚な風景で知られていた。城主の数寄を凝らした別邸御茶屋もあり、秋は月に、夏は海水浴を楽しめる場所であった。東屋、腰掛け、茶店などの他、高級旅館も建ち並んでいた。

また大正6年(1917)の兵庫電気軌道（現山陽電車）の開通に合わせ「遊園地前駅」をつくり観光客誘致が図られた。昭和初期には近代的な錦江ホテルも開業した。この建物は昭和23年（1948）に播陽幼稚園として改装されたが、ホテルが幼稚園になるということで話題となった。中庭の池泉式日本庭園をそのまま園庭にしていたといわれている。

昭和23年（1948）には、水産博覧会が開催され、その後も花火大会や漫才大会のイベント、水族館の開業などで大いに賑わった。



中崎遊園地（絵葉書、明治後期～昭和初期、個人蔵）



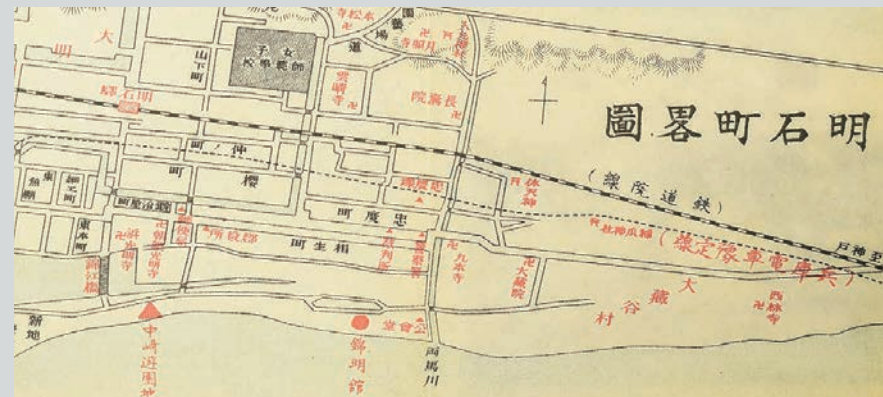
錦江ホテル（絵葉書、昭和初期、個人蔵）

【夏目漱石の講演】

中崎公会堂では、菊池寛や佐藤春夫も講演を行っている。公会堂の柿落しは明治44年（1911）8月13日の夏目漱石の「道楽と職業」という講演である。近代における職業の専門化が社会と個人に与える影響など、現代にも通じるテーマを論じている。

「明石という所は、海水浴をやる土地とは知っていましたが、演説をやる所とは、昨夜到着するまでも知りませんでした。どうしてあいう所で講演会を開く積りか、ちょっとその意を得るに苦しんだくらいあります。ところが来て見ると非常に大きな建物があって、彼処で講演をやるのだと人から教えられて始めてもっともだと思いました。なるほどあれほどの建物を造ればその中で講演をする人をどこからか呼ばなければいわゆる宝の持腐れになるばかりであります。」

出典：夏目漱石「道楽と職業」『私の個人主義』（講談社、1978年）10頁より



出典：「須磨舞子明石附近略図・明石町略図（須磨舞子明石遊覧案内 全 附淡路岩屋案内）」（大正5年（1916）、明石市蔵）



夏目漱石

出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」
(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)

左の図には両馬川の西側に赤字で「公會堂」「錦明館」「中崎遊園地」の記載がある。大正6年（1917）開通の兵庫電気軌道（現山陽電車）の軌道予定線を確認できる。この頃に埋め立てが進んでいたはずの外堀も描かれている。

あかし 歴史のまち
「文化財ウォーク」

「近代化」と「時のまち」を
物語る文化財を歩く



明石市立天文科学館の展望台からの明石海峡大橋

東経135度の日本標準時子午線の通るまち明石。
城下町東部の「近代化」と「時のまち」の歴史を
物語る文化財を訪ねてみましょう。



月照寺山門



明石市立天文科学館



日本中央標準時子午線通過地識標



中崎公会堂(旧明石郡公会堂)

モデルコース

- 明石市立文化博物館
徒歩3分
- 明石神社
徒歩7分
- 月照寺山門
徒歩1分
- 子午線標示柱
徒歩1分
- 柿本神社
徒歩3分
- 明石市立天文科学館
徒歩4分
- 神明国道子午線標識
徒歩3分
- 日本中央標準時子午線通過地識標
徒歩2分
- 中崎公会堂
(旧明石郡公会堂)
徒歩5分
- 中崎遊園地ラヂオ塔

「近代化」と「時のまち」文化財地図



明石城下町と近代


元和3年(1617)、徳川幕府2代将軍秀忠の命で小笠原忠政(のち忠貞)が明石へ入封し「明石藩」が誕生した。忠政は、当初、明石川西岸の船上城に入ったが、翌年、新城の築城を命じられた。築城場所は人丸山が選ばれ、本丸にあった月照寺と人丸社は現在地に移された。「本丸」「二ノ丸」「三ノ丸」の石垣・堀は幕府によって築かれた。屋敷などの建築や外堀・城下町・街道・港の整備は忠政が行った。忠政の豊前小倉への転封後、本多家が代官となった。その後、明石藩は譜代や親藩の大名家が統治し、越前松平家の治世に明治

維新を迎えた。

明石城は廃城後、民営公園、御料地編入を経て、大正7年(1918)に県立公園として開園した。淡路島を望む城下町南部の海岸には明治36年(1903)に中崎遊園地が開設され、旅館や茶屋も立ち並び、行楽客を集め、明治44年(1911)には中崎公会堂が建てられた。明治43年(1910)には城下町東部に日本で最初の子午線標柱が設置された。その後、数度にわたり子午線の精度を確かめるための天体観測も実施され、昭和35年(1960)には明石市立天文科学館が開館している。

1 明石神社

明石神社はもともと明石城にあったが、明治 31 年 (1898) に明石城全体が御料地に編入され、現在地に移設された。その後、兵庫県南部地震で損壊し、現在の社殿に改築された。神社には築城以来、太鼓門に置かれて城下に時を告げていた明石城太鼓が保存されており、明石市指定文化財に指定されている。



「明石城太鼓」



「明石城太鼓」

2月照寺山門

この山門は初代藩主小笠原忠政以来、歴代藩主が住んだ居屋敷曲輪の切手門（正門）で、伏見城の薬医門が移されたとも伝えられる。明治4年（1871）の廃藩置県の後には月照寺の山門として移築された。明石城の遺構として残る数少ない建築物である。


3 子午線標示柱

昭和3年(1928)に京都大学観測班の天体観測で、丸丸山を東経135度子午線が通過していることがわかり、昭和5年(1930)に月照寺の山門前にこの標示柱が建設された。その後、昭和26年(1951)に実施された再観測に基づいて、11m程東の現在地に移設された。標示柱は高さ7m、鉄柱直径15cmで、地球をかたどったカゴの上に「あきつしま」(日本の別称)を象徴したトンボ「あきつ」がのっている。



4 柿本神社

弘仁2年(811)に弘法大師が明石へ来て人丸塚(明石城本丸跡)^{こなんさんぽんりゅうじ}に湖南山楊柳寺を建立した。覚証上人は、柿本人麿の霊が明石に留まるのを感得し、仁和3年(887)に寺の背後に人麿祠堂を建てたのが柿本神社の創始と伝えられている。境内に明石市指定文化財に指定されている石造狛犬と播州明石浦柿本大^{だい}夫祠堂^{ふしゅうの}がある。「石造狛犬」



「石造狛犬」

5 明石市立天文科学館

プラネタリウムをもつ4階建ての展示棟の上に、高さ 53.5メートルの高塔を備える博物館である。昭和 35 年(1960)に竣工し、時の記念日の6月10日に一般公開を開始した。高塔上部には、展望室と天体観測室を備え、南側壁面の大時計は日本標準時を刻んでいる。時と宇宙に関する学習施設として、また「時のまち・明石」、「子午線のまち・明石」のシンボルとして親しまれている。

6 神明国道子午線標識(明石市指定文化財)

昭和3年(1928)の天文測量で定められた子午線を示す標識(コンクリート製)で、昭和8年(1933)に国道2号(旧神明国道)沿いに建てられた。

昭和 26 年 (1951) に実施された再観測に基づく他の標識より、約 10m 西側に建っている。北側には明石子午線郵便局がある。



7 日本中央標準時子午線通過地識標

明治43年(1910)に明石郡小学校長会の呼びかけで教員が給料の一部を出して建設されたものである。再観測や周辺の道路整備に伴い、当初の位置から数度にわたり移設されて現在地となっている。隣接する交番は子午線交番と呼ばれている。

8 中崎公会堂(旧明石郡公会堂) ※表紙に写真
(兵庫県指定重)

明治44年(1911)に中崎海岸に建てられた明石市内最古の公共施設である。設計・監督は旧明石郡出身で当時奈良県技師であった加護谷祐太郎で東大寺大仏殿の修理も担当している。奈良・鎌倉時代の建築様式を取り入れるとともに、木造トラス構造を採用し、柱をもたない大規模な大広間を構築しており、建築技術的にも貴重な建造物である。昭和58年(1983)に大改修を行い、建築当時の姿に整備されている。



9 中崎遊園地ラヂオ塔 (国登録有形文化財)

ラジオ塔は塔の上部に受信機やスピーカーを置いて、ラジオ放送を共同で聴くための施設である。日本でラジオ放送が始まったのは大正 14 年（1925）である。ラジオを普及させるため、昭和の戦前期に各地の公園や広場などに建てられた。京都の円山公園のラジオ塔が評判を呼び、明石では昭和 12 年（1937）9 月に建てられ、戦後に家庭用ラジオが普及するまで使われた。塔には「ラヂオ塔」と銘記されている。

